

キルギス政治・経済レポート

新キルギス NOW

(第7号：2012年5月～6月期)

\*本レポートはROTOBOの協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBOの組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

【政治】

議会

キルギス、民族紛争から2周年を迎える

2010年6月、400人以上の犠牲者を出した南部オシュ、ジャララバドで起こった大惨事から2年が経過、キルギスでは、6月10日10時、国民全員が、1分間の黙祷をささげました。また、キルギス南部の商業都市オシュでは、キルギス最大のモスクの会堂式が行われました。式典で、アタンバエフ大統領は、「イスラムは、統一の宗教である。そして、キルギスのすべての国民は、一つの国家の構成員であることを忘れてはならない」と挨拶しました。新しいモスクは、最大2万人を収容でき、地元市民やトルコ、サウジアラビア政府からの支援金で建設されています。

キルギス国民の意識調査結果

共和党国際研究所（IRI）の最近のキルギス国民に関する調査結果では、民主主義に対する信頼度が上昇する一方で、南北間の対立も鮮明となりました。調査では、北部住民の67%が、民主主義を信頼していると回答する一方、南部住民は46%という結果になりました。しかし、2011年9月以降、民主主義が進んでいると確信する人の割合も42%から53%に増えています。これは、新政府に対する民主主義に関する信頼度が上がっているということです。さらに、民主主義にとって、アクティブな野党が必要であると信じる人の割合も、62%から74%に上昇しています。次に、キルギスにおける最大の問題は何かという調査では、1位が失業、そして汚職、後進経済でした。特に国民の96%が、汚職を最大の問題と考えています。外交政策に関する調査では、独立国としての存続を希望する一方、63%の国民は、非常時には、ロシアとの再連合を考えるとしています。キルギス国民は、ロシアを、最も重要なパートナーと考えています。次が、カザフスタン、トルコの順です。調査では、キルギスの新たに採用された議会制度が、民主主義を後押ししており、国民の民主主義に対する信頼も漸次上昇してきていることが分かります。また、野党勢力への国民の支持は、精神面で変化してきています。社会的安定が、民主化にプラスに働いているようです。

**外交****アタンバエフ大統領、カザフスタンのナザルバエフ大統領を訪問**

ナザルバエフ大統領は、キルギスの関税同盟参加支援を強調、「我々の専門家が、キルギスの議会批准に必要となる約60の書類の準備を手伝う用意がある。書類準備には、大変時間がかかるが、我々は、すでに経験済みであるため、キルギスの作業をスピードアップできる」と述べました。さらに、ナザルバエフ大統領は、キルギス国民が、入国後5日以内に、滞在登録をすれば、カザフスタンに90日間まで滞在することも合意しました。二国間の貿易額は、今年3ヶ月間で、すでに昨年の約50%増（2億2,400万ドル）に急拡大しています。ビジネス以外でも、カザフスタンは、2010年6月の民族紛争以降、総額3,000万ドルの無償資金協力や、人道支援、建設資材、軍備などに公的融資を提供しています。

**キルギス、中国と二国間文書に調印**

北京で開催した上海協力機構の首脳会議に出席するアタンバエフ大統領は、会議に先立ち、胡錦濤国家主席とキルギス・中国の二国間文書調印式に出席しました。調印式では、4つの文書が署名されました。大統領と国家主席による中国・キルギス共同宣言、キルギス外務大臣と中国法務大臣による受刑者移送上のキルギス・中国間の協定、キルギス第一副首相と中国の商業省副大臣による経済・技術協力に関する協定、最後に、キルギス財務副大臣と中国輸出入銀行会長によるダトカ・ケミン送電線と小型発電所の建設に関するキルギスと中国間の融資契約です。今回のアタンバエフ大統領の中国訪問は、大統領としての最初の公式訪問です。

**【経済】****経済・多国間関係****ビシュケクにトヨタの営業所オープン、日本企業進出に対する期待高まる**

アタンバエフ大統領は、日本から訪問した経済産業省五嶋賢二審議官との会談で、「ビシュケクにトヨタ自動車事務所を開設したことは、日本企業のモデルとなるだろう。そして、我々は、日本企業の存在感が、キルギスで、もっと高くなることを期待している」と日本の進出に強い期待を述べました。経済産業省の代表団は、資源エネルギー庁、JOGMEC、NEDOなどで、キルギスのエネルギーと資源関連分野での共同事業に関心を持っています。今回、キルギス政府とレアアース開発や省エネ関連技術での共同を話し合ったようです。2011年度の日本からのキルギス投資は、わずか20万ドルでした。

**ソウルでキルギス・韓国ビジネス・フォーラム開催**

経済・独占禁止政策省のサリエフ大臣は、2011年度のキルギスと韓国の貿易取引は6,400万ドルと低調であったが、この金額は、二国間協力の潜在的な大きさを反映していないと述べ、更なる貿易拡大に期待を表明しました。韓国側も、ビジネス・フォーラムへの高い期待があると応答しました。韓国企業は、2010年の民族紛争から、社会不安の全国的拡大を懸念し、事業進出を中断する企業がありましたが、新しい政治体制が動き出して、最近では再開を検討している企業も増えています。ババノフ首相は、韓国のキム首相と会談し、二国間の自由貿易協定や韓国へのキルギス人出稼ぎ労働者数の枠拡大、キルギスの鉱山開発、エネルギー、通信分野への韓国企業の投資などについて意見交換をしました。キム首相は、二重課税防止協定などを含めた両国間の法的フレームワーク改善の必要性をあげました。

## 貿易経済関係の発展

### 国家統計委員会、2012年1月～5月のGDP、前年同期比-6.4%と発表

ババノフ首相は、「キルギス最大の金鉱会社クムトールが40%生産を減少させたことや工業セクター全般でも20%の生産減少があり、サービスセクターが+5%と好調であったが、全体として成長率は低調となった。2012年度GDPは、当初の+7.5%予想から大幅に減少して+1.8%成長になる」と発表しました。更に、ババノフ首相は、「我々は、一企業に依存することから脱却する必要がある。また、鉱業以外の産業やビシュケク市だけでなく地方経済を成長させることが重要である」として、生産レベルの産業や地域の分散を訴えました。

## 投資政策・金融市場

### 鉱山会社に対する新たな規制の行方

経済・独占禁止政策省のサリエフ大臣は、鉱山開発事業に関する最初の法案審議をほぼ終えて、引続き次の議案について議論していると述べ、新たな鉱業税12%と汚職防止のための規制見直しについて検討していることを明らかにしました。これにより、今まで広く行われてきた税金逃れを一掃、登録鉱山企業数は、800社から約300社程度まで減る見込みです。キルギスは、公職員の汚職と鉱山会社の監視ができず、税金を適切に徴収することができていません。また、採掘開発をせずライセンスを転売して儲けることを防止するため、企業がライセンスを第三者に転売することを違法とし、合意した期限内に生産を開始しない企業に対しては重い罰金を科すことも検討されています。

## 鉱業セクター

### シリコン製造工場「クリスタル」

昨年夏、ロシア企業やドイツ企業などが、買収に関心を表明したが、理由が分からず入札が無効になったシリコン製造工場「クリスタル」の買手が決まりそうです。クリスタルは、ソビエト時代に作られたシリコン製造工場で、キルギスの南部ジャララバド州のタシュ・クムル町にあります。ナリン川が近くを流れ、近辺で良質のシリコン鉱石が採れることから、シリコンバレーとして注目されてきました。しかし、工場設備が古く、何度か操業を試みましたが倒産してしまいました。委員会の報告では、今回、買収に成功した企業は、ロンドン、上海、台湾、インドネシアで資源、エネルギー、不動産投資などを行う国際投資資本リッチ・グループです。リッチ・グループの買収金額は、600万ドルで、今後5,000万ドルを投資する計画であるということです。リッチ・グループ代表は、年間50トンのシリコン・メタルの生産を計画しており、シリコン・メタルから漸次多結晶質シリコンの生産に移行するとしています。

### 資源ナショナリズムの台頭

カナダのレアアース鉱山会社スタンズ・エナジーは、同社が契約違反をしているという報告書が、提出されたことに強い不快感を表明しています。同社は、「我々がライセンスを遵守していないという今回の報告書は、正確ではなく、またある個所は、全くのたらめである」と声明を出しました。同社は、7年前から、レアメタル鉱床「クテサイⅡ」の開発を行い、既に1,800万カナダドルを投資してきました。同社の苦境は、他のカナダの会社、センテラ・ゴールドが所有する資産差押えの動きと酷似しています。センテラ・ゴールドが操業しているクムトール金鉱山の違法を陳述する800ページにわたる報告書が議員内委員会に提出されています。委員会メンバーのサビロフ議員は、「報告書は、この鉱山会社の多くの違法行為を明らかにしている。そして、国の環境に深刻な損害を与えた。キルギスは、自らの利益を守り、クムトールを国営化する必要がある」と主張しています。6月22日のトロント証券取引所は、センテラ・ゴールド社の株を売る動きが強く、数時間で35%も下落しました。外国人投資家は、キルギスで、資源ナショナリズムが進行しているかもしれないと怯えています。

### 農業セクター

#### 日本・キルギス合併会社設立

鹿児島県指宿市の社団法人キルギスタン鹿児島友好協会（水迫政治会長）とキルギスによる合併会社、Japon Holding Company がキルギスに設立されました。同社は、農林畜産などを中心に各事業会社を設ける計画です。このほど代表団が、キルギスを訪問、首都ビシュケクを中心に視察、政府要人との面談、キルギス国立大学で日本語学科の学生と意見交換などを行いました。水迫会長は、「キルギスの人は親日派が多いが、日本ではキルギスを知っている人がどれほどいる

だろう」と中央アジアの小国キルギスが、日本人に知られていないことを嘆いていました。しかし、「キルギスの牛は小さくて痩せており、肉用牛としては世界に通用しない。牧草地はたくさんあるので子牛をオーストラリアなどから輸入して飼育するなど、改善の余地は十分にある。今後キルギス側に提案したい」と、早くもキルギスでのビジネス展開に思いを馳せていました。

## 工業セクター

### 中国企業、大型製油所建設

中国企業が、カラバルタ（首都ビシュケクから西に約100キロ）に年間生産能力100万トンの製油所を建設中、今年秋に完成予定です。工場の総面積70ヘクタールは、2つの工業用地に分かれていて、一つが、原油と完成品の貯蔵と精製のための用地で、もう一方は、石油施設です。エネルギー・工業省のシャディエフ大臣は、10月に、最初の石油製品を生産開始すると発表しました。原油85万トンからガソリン、ディーゼル油、燃料油、モーター油などを65万トン生産予定です。製油所建設費用は5,000万ドル、更に設備に1億ドルを投資します。これらの製品は、キルギスの国内需要の約65%を賄うことができます。アタ・メケン党首オムルベック氏は、この製油所が完成すれば、石油製品輸入に依存してきたキルギスの中央アジアにおける地政学的状況を一変させるだろうと分析しています。このプロジェクトは、キルギスでは、最近にない大型案件で、この中国企業は、将来、カザフスタン（シムケント）からパイプラインで、原油を輸送して、中国の阿克苏（新疆ウイグル自治区）に供給する計画です。

## 金融セクター

### 急成長するキルギスのマイクロファイナンス

キルギス国立銀行の発表によれば、マイクロファイナンス会社の中に、純利益が、銀行を超える会社が現れました。2011年の商業銀行の純利益は、トップのKICB 2億7,700万ソム、Demir International Bank 2億200万ソム、RSK Bank 1億7,000万ソムなどに対して、マイクロファイナンス会社は、以下のような成績となりました。

	会社名	純利益(単位：ソム)
1	Mol Bulak Finance	271,735,000
2	Financial Group	157,646,000
3	Finca	129,308,000

4	Bai Bravery and Partners	104,361,000
	マイクロファイナンス全体	1,137,308,960

マイクロファイナンス会社は、2010年以降、ローン残高を倍増し、キルギスの個人向けローンの70%以上のシェアを持っています。キルギスの貧しい地方を中心に、当局の規制が緩やかなこともあり、近年、小口ローンがブームとなっています。マイクロファイナンスの市場は、大手上位4社による寡占状態ですが、会社設立には、わずか10万ソム(2,175ドル)の資本金だけで開業できることから、零細マイクロファイナンス会社が、乱立しています(450社以上)。これらの会社は、年率50～70%の高利で貸出を行っています。5月に、キルギス国立銀行は、高金利で貸出をしていた94のマイクロファイナンス会社を閉鎖させましたが、いまだに、きちんとした規制を実施していません。大手のマイクロファイナンス会社では、貸出管理を強化する動きがある一方、積極的な貸出競争を展開する会社も多くあり、しばらくは過熱状態が続きそうです。

## 観光セクター

### キルギス政府、この夏、観光地に2,000人以上の警官を配備

内務省は、「特別警察隊が、観光客の安全を守り、人が集まる場所の秩序と安全を確保することを目指す」と発表しました。さらに、ヘルプ・ホットラインや緊急情報サインを道路に設置、また、ヘルプラインサービス、罰則事項の情報、非常事態省や保健省などの情報をステッカーやリーフレットにして配布する予定です。アタンバエフ大統領は、世界から旅行者を誘致するためには、観光客の安全に特に注意を払うことが重要であると述べています。政府は、新しい観光キャンペーン「アジアのハート」を実施中で、より多くの外国旅行者を誘致することに注力しています。

### キルギス初の国際マラソン大会「第1回キルギス国際マラソン」開催

第1回キルギス国際マラソンが、2012年5月26日、イシククル湖で、快晴のもと開催されました。集まったランナーは874人。5キロ、10キロ、42.195キロの3部門に分かれて遥か7,000メートルの雪を抱いた天山山脈を横に見ながら、イシククル湖畔を走り抜けました。大会の2日前の統計データによると8か国から784名が登録しました。キルギス人708名、日本人50名、アメリカ人10名と海外からの参加者も数は少ないながらもいました。年齢別では20代が最も多く、30代、10代と続いていました。この大会のジェネラル・スポンサーDAVOS、オフィシャル・スポンサーの「トヨタ」を始め、15社以上の企業がスポンサーとして大会を支援しました。

## エネルギーセクター

### 送電線建設プロジェクト CASA-1000、調印される

ドバイで開催されていたキルギスタン、タジキスタン、パキスタン、アフガニスタン4か国による送電線建設プロジェクト CASA-1000 の調印がついに行われました。総額 10 億ドルのプロジェクトは、3年前から検討されてきたもので、キルギスとタジキスタンの水力発電所で発電された余剰電力を、アフガニスタンとパキスタンに供給し、同国の経済発展を支援するという重要なものです。輸出する電力は当初 1,000 メガワットをパキスタン、300 メガワットをアフガニスタンに、最終的に、5,000～6,000 メガワットが中央アジアからパキスタンとアフガニスタンに供給される計画です。送電線距離 750 キロの建設資金は、世銀、IFC、アジア開銀、イスラム開発銀行 (IDB) が PPP (官民パートナーシップ) ベースで融資する予定です。

## 情報・通信セクター

### グーグル、キルギスに進出を検討中

米国のインターネット大手グーグルが、キルギスに事務所開設を検討しています。グーグル社のシュミット会長は、グーグルとキルギスが共同で「イノベーション・センター」を創設することを提案しました。会長は、「我々は、キルギス政府の透明性が、開発のエンジンになると信じている。政府が、インターネット開発の環境整備することが重要である。自由、革新的経済、開放的政策、そして人間の想像力が、IT 産業発展のための必須要素である」と述べました。オトルバエフ副首相は、「キルギスは、さらに外国投資を誘致するために法律的枠組みを発展させるよう努力する」と答えました。シュミット会長は、更に「キルギスは、国の教育課程で、技術教育に重点を置く必要がある」とつけ加えました。キルギスでは、折しも国家的 IT 産業振興に向けた「ハイテク・パーク」がスタートしたところです。

## 運輸・交通セクター

### 日本・キルギスの航空ルート

モルドガジェフ在日キルギス全権大使は、ビシュケク・東京間の航空便について、2つの選択肢を提言しています。大使によれば、いろいろな選択肢を調査した結果、2つのルートが現実的なものとして選ばれました。一つは、ビシュケクとソウルのルートで、ソウルは、大規模輸送ハブとして、日本の主要都市からフライトが来ています。したがって、ビシュケク・ソウルのルートを開設できれば実現可能となります。第二のルートは、トルコ航空を使ったルート開設です。東京(成田)・イスタンブール間は、毎日運航しているので、トルコ航空が、一週間に最低1回、ビシュケクにトランジットに寄れば、直行便が実現します。しかし、途中での離着陸には、相当

のジェット燃料が必要になるので、簡単ではありません。トルコ航空は、仮に、東京での飛行場を羽田にすることができれば、検討できるとしています。現在の日本とキルギス間の航空ルートは、非常に不便です。ウズベク航空でタシケント経由、アエロフロートでモスクワ経由などが利用できますが、トランジットの待ち時間が長く、便数も限られています。

\*\*\*\*\*

#### 執筆者略歴

熊切一郎：1976年一橋大学経済部卒、同年三菱信託銀行入社、香港、ロンドン、シンガポール勤務、主に国際金融開発、国際投融资業務を担当、2005年三菱UFJ投信、2010年9月より独立行政法人国際協力機構シニアボランティアでキルギス共和国大統領府が設立したPublic-Private Partnership and Investment Promotion Centerで投資アドバイザーとして活動中。